

令和2年度 第2回学校評議員会 評議員による質疑・助言(抜粋)

- ・期 日 令和3年2月17日(水) 14:00～15:30
- ・場 所 前沢明峰支援学校 多目的ホール
- ・参加者 学校評議員4名 本校職員14名

(1) 質疑(○は、意見・所見等)

- A評議員 Q: 舎の職員体制について、先日の地震時は大丈夫だったのか。
副校長 A: 舎の寄宿舎指導員は16名。各棟2～3名で対応している。教員も1名泊まっている。
地震等の避難訓練は、日頃から行っている。先日の地震発生時には、生徒は帰省中だったために問題は無かった。
- A評議員 Q: ヒヤリハット・アクシデントとは、どのようなことか。
保健主事 A: ヒヤリとしたりハットしたこと、アクシデントの報告である。事故を未然に防止するために、職員で共有している記録のこと。件数が多くなってきているのは、職員に情報共有の意識が根付いてきた表れだと思う。
- B評議員 Q: ヒヤリハット・アクシデントは、県に報告しているのか。
保健主事 A: 県への報告はしていない。
B評議員 Q: 県に報告するのは、どのようなケースか。
校長 A: けがによる入院・生徒指導のトラブル・職員の公務災害などである。
- B評議員 Q: 特別支援学校継続型訪問支援の対象は幼稚園か。
支援センター部長 A: 幼稚園が対象となる、県の事業である。
- B評議員 ○: サービス事業所との連絡会は、学校での授業内容を知ることができて事業所での支援に活用できている。
- B評議員 Q: 学校評価はHPに掲載するのか。
副校長 A: 例年の形式で、結果概要について掲載予定である。
- C評議員 ○: スクールカウンセラー配置事業について、スクールカウンセラーの利用が多いので、年6回では少ないのではないかと感じる。
支援センター部長 A: 回数を増やしてもらえるように、県に要望中である。
- C評議員 ○: 以前、自分が担当した生徒で指導がうまくできなかった生徒がいたが、前沢明峰支援学校で生徒会長になってすごく感激した。今年度は、コロナで行事が減ったが、落ち着いて生活できたという報告に共感できたし、子どもたちが元気で生き生きと活動ができて良かったと思う。イオン前沢店など外部で活動ができることは良いことだと感じた。

(2) 助言

◎評議員の皆様からご助言をいただきたい事項

来年度の取り組みについて、地域の中で本校の児童生徒ができることなどがありましたら、ご助言をいただきたい。

- B評議員 ○：コロナ禍での取り組みは、大変だったと思う。学校との連携・教員とのコミュニケーションが大切なので、これからも気軽に交流できればいいと思う。
- C評議員 ○：子どもを褒めてあげて欲しい。褒められれば子どももうれしいと思う。校内で取り組んでいる数々のことは、生徒の張り合いにもなると思う。
- A評議員 ○：前沢明峰支援学校は近くにある学校だが、意識的には、近くても遠い学校だった。今年度評議員になって初めて学校に足を踏み入れた。地域の集まりの場所として、気楽に交流できればいいと思う。
- D評議員 ○：実習に来る生徒は、いろいろなことができる生徒ばかりである。
Q：体位について報告があったが、肥満とやせの生徒に対しての指導はどのようなことをしているのか？
- 養護教諭 A：肥満の児童・生徒には、個別の面談や食事指導を実施している。希望者には定期的な体重測定を実施しながら、指導している。
やせの生徒は重複学級の生徒も多く、体重を増やすことが良いとも言えない現実があるが、高等部のやせ傾向の男子生徒には、何らかの指導が必要だと思う。
- D評議員 ○：社会人として生活する上では、体力が基本である。学校を卒業した後の生活の方が長いので、肥満はもちろんであるが、やせ傾向の生徒にも家庭と連携して、何らかの指導をして欲しい。